



全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>



雨だれや 同心円に 日の踊り

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 仲野 十和田
〒173-0005 東京都板橋区仲宿53-10 ナカジユク内
TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理事長 谷村 志厚
047-368-2729
広報部長 監物 一男
048-688-6903



(社)全国学習塾協会・平成19年度通常総会開催 石井・山口両先生ご退任へ・永年のご努力に感謝

平成19年6月10日、東京ベイエリア有明の東京ファッションビルにおいて、全国学習塾協会(JJA)の平成19年度の通常総会が開催されました。協会は発足以来19年の歳月を重ね、ついに20年の記念すべき年度に入りました。区切りの19期をもって、石井先生が会長職を、山口先生が監事の職を退かれることが総会席上表明され、会場はお二人を慰労する言葉につつまれました。

お二人の存在は全国学習塾協会の歴史そのものです。協会発足以来役職を歴任され、山口先生は全塾連の理事長と並行して協会副会長に就かれていました。一方石井先生は、関西私塾連盟で職務を果たされるとともに、協会の理事を務められました。その後、平成10年からは会長職に就かれ、もっとも多難な時期の協会の運営に手腕を発揮されました。お住まいが大阪であることもふくめ、奉仕の精神なくては成立たぬ会長職を、9年の長きにわたり全うされたことは、頭の下がる思いひとしおです。この間、協会の財政の改善を手始めに活動全般の健全化にお力を尽くされました。現在では透明性の高い協会に成長したと、その功績が評価されています。

石井会長の9年間のご努力に感謝

石井会長は総会冒頭のご挨拶の中でご自分の去就にふれ、ラストメッセージを述べられました。

「個人的なことで申し訳ありませんが、私は今期をもって会長職を退任させていただくことになりました。協会発足時より、各方面にわたり先生方にご指導を賜り、ご協力をいただきました。特に平成10年、会長に就任させていただいて以来、経済産業省の累代の課長様をはじめ、担当者の方々には一方ならぬお世話になりました。また、協会内部にあっては、専務理事、副会長をはじめ理事の先生方、各支部役員の先生方、事務局の皆さんにも筆舌に尽くせぬほどのお力添えをいただきました。私ごとき者が、9年間の長期にわたり、この重責を曲がりなりにも果たさせていただけたのは、本当に皆様方のおかげでございます。心から御礼申し上げます。

来年は協会は設立20周年を迎えます。公益法人の見直しに対する対策も立てなければなりません。役員の皆様には自塾を犠牲にしてまでも、協会の運営に当たっていただいております。正会員の皆様には今後とも協会運営にご理解とご協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。私も一協会員として、協会ならびに塾業界のために微力を尽くさせていただきたいと思っております。

終わりにになりましたが、ご参集の皆様方の学習塾

のますますのご発展と、ご健勝を心から祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。」

(以上発言は協会ニュース抜粋)



全国学習塾協会新体制発進

私塾ネット会員理事、協会運営をバックアップ

7月1日開催された協会理事会において、石井先生退任後の会長職および執行部の選任がおこなわれました。その結果、会長に前副会長の伊藤政倫氏が



選任されました。会長をバックアップする執行部三役には、副会長に楠山敬志氏、碓優氏（ともに私塾ネット会員）、岡田保雄氏（東京私塾協同組合）が就任されました。また、専務理事には稲葉秀雄氏が留任し協会実務を専務することになりました。

協会常任理事7名の中には、入江昌徳氏、関志郎氏のお二人の私塾ネットのお仲間が選任されています。引きつづき私塾ネット会員の皆さんの協会へのご理解とご援助をお願いします。



副会長の碓先生を真ん中に入江(左)関(右)の両理事

一方今期をもって協会監事を退任されたのが山口恭弘先生です。先生は協会発足時からの19年にわたり、協会役員として協会の運営と塾業界の発展に寄与されてきました。これまでのご尽力に深く感謝するとともに、業界のご意見番として今後ともご指導をお願いしたいと思います。退任にあたって広報に一文のご投稿をお願いしたところ、以下のメッセージをいただきました。（文責谷村）



社団発足以来の朋友、山口・石井両先生。記念の一枚。

私を導いてくれた「三人の先生」

会長 山口恭弘

広島市西部の塾で子供たちに中学受験の指導をしてきて、もう半世紀近くになります。その間、私には常に3人の「先生」がいました。いや、今もいます。「塾にくる子供たち」「保護者」「仲間の塾の先生」です。今日はその中の「塾の先生」について書いてみたいと思います。

「実力とは、変化に対応する力」「遊びと勉強の違いは、遊びはいやならなくてもよい、勉強はいやでもしなければならぬ。ただ、やり遂げた先には本当の喜びがある」...。経験を重ねたせい、今でこそ、問われても私なりの回答がすらすらと口に出ますが、塾を本格的に始めて15、6年たった昭和50年代（1970年代後半）だったでしょうか。「子供たちのやる気を引き出すのにどうしたらよいのか」日々、悩んでいました。

ある日、同じ全国私塾連盟（全塾連、当時）のメンバーで、2、3歳年上のA先生に尋ねてみました。頭の切れが鋭く、連盟の智恵袋的存在。この方ならきっといい方法を教えて下さると思ったからです。返ってきた返事は「子供の数だけある」。すごく真っ当な答え。でも、実践には役立ちません。

他団体の先生でしたが、学者肌で理論家として知られるB先生にも同じ問いを投げ掛けてみました。回答は「やる気を引き出すのは塾にとっては永遠の課題」。名言です。しかし、答えにはなっていません。

さらに、「独習の進め」「自分の力でする勉強」などの著作もあるC先生にも教えを請うてみました。しばらく考えた末、「よい先生に出会う」とおっしゃいました。これまた抽象的で、私に何の手掛りも与えてくれません。

それから半年ぐらいたったころでしょうか。子供たちを教えている最中、ふとC先生の言葉が脳裏に浮かび、直感的に「よい先生に出会う」は正解だとひらめきました。

「自分がこれ以上、よくなるのは不可能。事実、教えている生徒の中にも自分より頭のいい子はいる。私の役割はまじめにキチンと勉強する習慣をつけてやることではないか。あとは、子供たちが自分の力で伸びていく」。その時、恐らく、こういう思考が無意識のうちに頭の中を駆け巡ったのでしょ。

今、振り返ってみれば、「C先生だけではない、三先生の回答は全部、正しかったのだ」と思っています。キチンと勉強する習慣付けは子供それぞれによってみんな違う＝子供の数だけある。生徒は毎年毎年、入れ替わる＝塾の永遠の課題。みなさんはどう思われるでしょうか。

昭和38（1963）年、全塾連に加盟して以来、多くの先生方と交流を重ねてきました。A、B、Cの三先生だけでなく、お会いした一人一人が未熟な私にとって「先生」だったと実感しています。

最近、雑誌「WEDGE（ウェッジ）」で「資本の論理は教育をどう変える 子供が犠牲に？受験産業を襲うM&Aの嵐」、「日経ビジネス」で「日能研『脱・詰め込み』事業の狙い 利益減も『子供のため』」という記事を読みました。機会があれば、これらの記事をめぐって一緒に話し合いたいと思います。

エリア中部 定例会・懇親会報告

エリア中部代表 松本 紀行

(期日) 2007年5月27日(日)～28日(月)

(会場) 松本市 桃仙園

天候にも恵まれ、なごやかな会合でした。



地元の仲間(原・三松・渡辺・松本)と東京から来られた石川先生、鈴木先生の御大将たちと久々に盃を交わし、有意義な一泊二日の交流をさせて頂きました。会場は松本市の奥座敷と言われている“桃仙園”。昔は桃の木を栽培していたところから、こんなホテル名になったそうです。現在は数千坪もある庭園に変わっており、一同、散策を楽しみました。

原先生特注のスペシャル・ルームでの定例会。少人数ながら実に盛り上がったのは、紅一点の渡辺先生のお力によるところが大でした。彼女の真剣さ、雄弁さを、石川先生、鈴木先生がしっかりと受け止め、色々と教えて頂いたことに感謝しております。東京の情報、特に裏事情というものは、やはり新鮮ですね。今日比谷高校、八王寺東高校、大森工業高校、東工大附属高校等の変遷のお話は心に残りました。いずれ近い将来、長野県にも似た傾向があらわれそうです。

約2時間ほどで一旦終了し、話の続きは懇親会でということになりました。この街では有名な料理人の手作り料理をいただきながら、皆さん、時の経つのを忘れたようです。ここでひとつ心に残った会話を報告しておきます。塾を経営している者は、おおむね主義主張をもっているものであって、社員の意見や世論にさえ靡かない場合が多い。悪く言えば“偏屈者”、良く言えば“一本スジが通ったしっかり者”とも言える。結論として、「塾経営している私達は、皆ガンコ者である」と。

私自身は、自分が大変やわらかい人間だと思っていましたが、原先生から“ガンコ”であると指摘され自己発見した思いが致しました。(実は、私以上

に本人はガンコなんです...)

よく考えてみますと、中小企業では社長の考えがイコール会社の考えです。社長の経営理念で会社が動いています。給与・ボーナスでも、長年の経験に裏打ちされた代表者の“感”“見通し”というものが、マニュアルより現実的なことが多くあります。経営者は会社を健全化していく上で、誰にも譲れない一線を言うものがあります。そんな意味では、石川先生もご自分でおっしゃられた通りですが、やはりガンコなんです。 “ガンコ万歳!!”今はそう思っています。信頼できる仲間だからこそできる話だとネットの皆さんに感謝しております。

最後になりますが、集まってくれた身近な仲間と東京から来て頂いたお二人のご健康並びにご活躍を大いに期待しております。次回の仙台の会合は楽しみにしております。



私塾ネット会計部長 石川 維智

5月27日(日)に行われたエリア中部の宿泊研修会に、エリア関東代表の鈴木先生と私石川が参加しました。新宿発の「あずさ」で松本に到着。電車を降りると、すでに空気が違います。

旅館は小高い丘のかなり上の方で、盆地が見下ろせる絶景の場所です。旅館が丘ごと所有しているようで、「山」全体が散策のコースになっています。

我々が一番乗りでしたが、まもなく松本先生が到着。それを追うように原先生、三松先生、渡辺先生が到着。6名揃ったところで、丘の散策に出ました。

景色を堪能して部屋に戻り、研修会開始です。

長野の進学状況や東京の状況などの意見交換をして、白熱した議論の内にあっという間に時間が過ぎ、懇親会へ。懇親会は中部の先生方のお人柄がらでしょう、とても楽しい暖かな雰囲気、夜が更けるまで談笑が続きました。

値段もかなりいい旅館でしたが、設備や料理もなかなかで、楽しい旅をさせていただきました。お招きくださった松本先生はじめエリア中部の先生方、本当にありがとうございました。また来年伺います。

新校舎落成

大森学園高等学校

創立110周年

和洋国府台女子中学高等学校

本校の目指す教育

大森学園高等学校 校長 井上 皓司



IAE（国際教育到達度比較）やPISA（学習到達調査）の結果から、日本の子供の学力低下が問題視されている。政府の教育再生会議の第一次報告

にも「ゆとり教育」を見直し、学力を向上することが最初に謳われている。

報告全体を読んで、子供の学力低下は教員の質の低下、学校での「いじめ」問題や規範意識を教育していないことや未履修問題などで問題のある教育委員会制度などに原因が在るから教育関係者は一から出直せとの報告であると感じたのは私だけだろうか。

少子化・高齢化社会を迎え、国是である工業立国・科学技術立国の継承者として若者の責任は重大である。高度化する技術に対応し、また、急成長する開発途上国を先導していくためにも若者が確かな学力を身につけていなければならない。しかし経済的には豊かな社会で育ち、生活の厳しさを知らない若者は、ニートやフリーターでその日暮らしをする者や何かあると簡単に離転職する者が多いようである。大学の学部卒業者の内就職も大学院への進学もしない者は、一時的な職に就いた者も入れると例年2割程にも達している。そんな若者たちは学力の劣る者たちばかりだろうか。

本校は昭和14年に地方から大森地区の中小機械工場に就職した従業員教育のために設置された大森機械工業徒弟学校をルーツとしている。当時の記録によると、旧制高等小学校を卒業して徒弟学校に入学した生徒たちに対し、各機械工場に配属する以前に農業体験合宿を行い、働くことの意義や上司・仲間とのコミュニケーションの重要性を教えたようである。農業体験としたのは当時の生徒たちは農家出身者が多く、農業が身近で親しみやすい存在であったからである。農業合宿の後、工場に配属され昼間は工業技術の実地を経験し、夜間は学校で普通教科や工業の理論・実習を勉強した。教える教員も配属工場の上司が担当するなど現在のデュアルシステムのような制度であった。その後、昼間は校舎が空いていることから旧制工業学校を設置し、戦後学制改革により工業高等学校となり現在に至っている。

そのような伝統のある本校では、勉学意欲低下を

防ぐため、勉学の目的、勉学の大切さを自覚させるためエゴグラムを活用し、自己分析により長所・短所を認識させるようにしている。また、グループ学習を通して他者とのコミュニケーションを促進させている。さらに他人を思いやる心の涵養を目的にボランティア活動を奨励し、「空飛ぶ車椅子」「おもちゃの病院」など他には無いユニークな活動をおこなっている。

卒業後の進路希望の多様化により、平成17年に普通科を設置し、平成19年から普通科だけ男女共学となったが、創立の経緯から工業科はこれからも存続させたいと思っている。工業科の目標は生活の手段として工業技術を身につけ、公的資格を取得し、身につけた技術力を社会的に証明することであるが、資格取得のためには自ら学ぶ姿勢が必要である。

普通科においてもこの考え方が踏襲され、英検や漢検のほかJ検（情報活用能力検定）など資格取得を奨励するとともに、総合学習の時間には車椅子のメンテナンスなどボランティア活動の要素も取り入れ、「勉強は大学合格のためだけではない」「学校は社会につながっている」ことを教え、将来の目的意識を持たせる教育をおこなっている。



校庭から見た新装なった大森学園高等学校校舎

創立110周年記念式典 ご報告とお礼 和洋国府台女子中学高等学校 校長 高橋邦昌

学園創立110周年の記念式典(6月2日)に際し、おおくの学習塾の先生方に関心をお寄せいただき、ご列席下さいましたことに厚くお礼申し上げます。



厳肅のうちに挙行される創立110周年式典



10年前の学園全体の式典と異なり、今回は私も和洋国府台校と九段の姉妹校は別個に実施しました。来賓として県知事(代理)・国会議員・県議会議員多数のご出席の外に、学習塾の先生方が数十名もおいで下さったことが国府台校の特色で、皆様の代表として千葉県学習塾組合の前理事長柳田晋次先生に主賓をお願い致しました。

式典の方針は、華美にわたることを避け、生徒の平素の姿、清楚で規律正しい和洋生をご覧いただくことを主眼としました。そこで、全生徒列席は勿論、式典での謝辞、アトラクションの出演と司会、受付・案内・接待など最大限の役割を生徒が前面に立って果たしてくれるよう配慮しました。その意味で多くの塾の先生方が生徒を直接ご覧下さったことは大変嬉しく、また、土曜日午後にかかるご多忙な中を祝賀会にもご出席下さったことありがたいことと存じます。重ねてお礼申し上げます。

ところで校長が交代して8月で満3年になります。経営方針を大きく転換しましたので、主な点を紹介させていただきます。

1, 淑やかな女子の育成を目指す教育活動は大切な基本財産としてさらに充実させる。

礼法(中高各1単位)、琴(同前)、家庭科の増加単位はそのままとする。

2, 学習指導強化の主な充実策

習熟度別の英数を全て2クラス3展開の少人数編成にしたこと(中3~高2)。

教育課程は併設女子大進学コース、外部進学型3コースのみとしたこと。

ただし、和洋女子大への優遇推薦は残す。

夏休みの講習を拡大させ、高校は50講座、参加1200名にも及びます。

英会話合宿(中学 冬休み)

パースの名門女子校から教師を招き、3泊4日(1年からも参加可能)。

60名程度からスタートし、今年は400名の希望があり、嬉しい悩みです。

ロンドン、オーストラリア、タイ、ベルギー訪問は従来通り。

3, 生徒による授業評価(高・全教科、中・5教科 年2回)

平素の授業が充実していることが最も大切で、教師は自己点検に活用しています。



式典後盛大に行われた懇親会風景

伝統校の和洋では、いま校内の風通しをよくして教職員の総力を結集することが経営の基本に必要です。そのため校長主宰の主任会を毎朝開く、中高を完全に一体化させる、校務万般を校長の目で点検するなど努力しております。この2年間の中学入試はお陰様で大きく盛り返すことができました。2年後には更に、はっきりとした成果が得られると考えております。先生方には、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

私塾ネット協賛行事レポート

首都圏では、社団、組合といった許認可団体からNPO法人、任意団体まで様々な塾団体活動が展開されている。私塾ネットでは関連の深い諸団体の行事を積極的に協賛し、運営を応援している。今回そんな事例の中から千葉学習塾協同組合の設立20周年活動を紹介する。千葉の塾組合は5月現在で加盟塾112塾を越え、全国的にももっとも活発な塾組合と

評価されている。私塾ネットとの縁も深い。私塾ネットの谷村は先々代の組合理事長で、その縁で前理事長の柳田氏（日米文化学院）、現理事長の松浦氏（教進セミナー）、現副理事長の長谷川氏（秀英ゼミナール）佐久田氏（青葉学院）もネット会員に名を連ねている。

千葉学習塾協同組合（JAC）設立20周年記念行事

設立20周年迎えた千葉学習塾協同組合（理事長松浦重雅氏）では、記念事業として「JACの森・植樹祭」と「教育シンポジウム」を実施した。植樹と里山の管理事業で環境教育の拠点作り

設立10周年記念事業ではカンボジアに小学校を1校建築贈呈したが、20周年は環境教育に着目し、植樹と里山の管理を記念事業の目玉とした。植樹場所は市原市から借り受けた2.7ヘクタールの里山。これを「JACの森」と命名し、植樹と今後5年間の管理業務をスタートさせた。植樹祭は5月12



環境教育の拠点として活用することを誓った。

教育シンポジウム

「教育改革の流れはどこへ行く！」

5月27日船橋駅前FACEビル「きららホール」で記念事業第2弾として教育シンポジウムを開催した。テーマは「教育改革の流れはどこへ行く！」で、注目の教育改革の現状を検証しようという試みである。

パネラーは公立学校から市立稲毛中学高等学校の柴寄校長、私学からは芝浦工大柏中学高等学校の佐藤校長、塾界からはNPO塾全協の菅原理事長、教育評論の世界からは小宮山博仁氏（私塾ネット名誉会員）そして組合からは赤瀬理事。コーディネーターは首都圏塾界の論客、皆倉組合理事が担当した。

公私立学校と私塾の視点で教育改革の流れを展望するという多面的な企画とあって、おのずから議論も白熱。保護者を含む出席者に、改めて教育改革の意義を問う結果となった。シンポジウムの詳細は10月発行の「20周年記念誌」に掲載される。



日、県内各所の組合員塾の生徒の手で執り行われた。あつまったメンバーは生徒と先生方350名。

「ちば里山センター」の指導で、まず15種231本の植樹に着手した。子どもたちは軍手にヘルメット姿で慣れぬ鍬を振り下ろし若木を植えた。森の広場にはヤキトリ、やきそば、アメリカンドッグといった屋台も並び、お祭気分を盛り上げた。会場入口には、幅6メートルの大看板も掲げられ、「JACの森」を宣言。今後まず第一期5年間の里山管理と

塾の日フェスティバル2007 in 宮城 に参加しよう！

全国学習塾協会主催の「塾の日フェスティバル」が今年宮城県松島で開催されます。協会の実行委員には私塾ネット東北のメンバーが参加しています。皆さんで参加し応援しましょう。

期日：2007年10月7日（日）

会場：宮城県松島・ホテル大観荘

内容：第一部 記念式典

第二部 基調講演&コンサート

「天に一番近い大地～チベットからのお話と歌」

第三部 親睦交流会

エリア関東研修会報告 (平成19年7月12日実施)

『生徒の心をどのようにつかむか：子供の可能性のスイッチをONにする方法』

於：京北学園中・高等学校

午前11:00～午後12:30
京北学園学校長 川合 正先生



川合先生より、いきなり算数の問題が出された。そして当然普通なら答えられるべき問題を中学・高校生や文系の学生の多くが答えられないとの例を挙げ、「数学の問題は苦手だ」と思考停止になってしまったためとのこと。そして早速今日のテーマに入り、

【意識が考え、無意識が応援する時、人は行動できる】例えば将来の夢はと質問し「医者です」と答えてきたら、なるべく何をするか大きな物から小さなものへ変換し、それならできると抽象から具体的な物へ、そして最後に「でもできない」と否定してきたら、実行できる物を探してみること。無意識の部分でマイナスイメージ（経験から来る）を持っていると、行動に移せない。寝る前に「今日は、良かった。できたー。」と思うことで、無意識の中のマイナスイメージが、「できる」という自己暗示でプラスイメージに変わってくる。すると限界を乗り越えて、行動できるようになる。したがって、大人からのマイナスメッセージ「まったくあんたは駄目ね。」とか「やる気になったのは嬉しいわ。でも続くかしら…。」とか「さっさとしなさい。お前は本当にのろまんだから」等々でやる気をなくしてしまわないようにする。特に母親が「さっさと」を多用するので注意。（親や教師がその生徒はこれくらいしかできないだろうと思っていると、実際に生徒がその程度で終わってしまう）しかしと繋げる場合は前者が否定、後者で肯定のパターンなら本人は褒められたとの思いが残るので良い。

9歳の壁（小3～小4）を取り除くこと。具体的な物から、抽象的・観念的な物に学習内容が変化す

る時。学習習慣を付けること。認知学習法が大切になる。「やればできるけどやらないだけだよ」が、できない子の言い訳。小3までは、色々体験させることが重要！さもないと勉強はできるのに、食欲が無い摂食障害などのある子供になってしまうケースがある。

【人は知的探求心が旺盛な動物である】証言
「熱中し、楽しいことをすれば、知性フレームは発達する。」「集中力を発揮して、かつ、楽しい時には、前頭連合野を中心にしてドーパミンが盛んに分泌される」（『幼児教育と脳』澤口俊之著）証言 「人がワクワクすることをともに喜び、人が苦悩することをともに受け止める。私たちの『内的成長』は、他者に支えられることから大きなエネルギーを得る。『内的成長』を支えるのは、まさにそうした『豊かな』コミュニケーションなのである。とすれば、私たちがいまこそ取り組むべきは、『豊かな』コミュニケーションを可能にする社会作りである。（『生きる意味』上田紀行著）

【京北中における学業成績の高い生徒の特色】 学習のポイントを早く理解する 宿題は必ずする 勉強時間の長さは関係しない（授業中の集中力） 教師や家庭のサポートがあり、友人も早いうちに行ける。

【子供との会話鉄則】 説得は、納得ならず（力よりも信頼こそが大切：お前のこと、心配なんだ） 子は背中を見ている（口より態度：手紙を書く、電話してあげる） 感情は、伝染する。

耳を澄ませば、ゴールが見える（傾聴から全ては始まる） 待てば海路の日和あり（あせっても意味は無い） 相手の力に期待しよう（子供には無限の可能性はある：ほめる） いいところ探しは、楽しい（欠点探しは、誰でもできる） 土足厳禁（繊細な子供の心）

（文責 私塾ネット広報部長 監物 一男）





エリア四国代表 湯口兼司



エリアの行事は春の総会と秋の研修会の二本立てとなっています。春は私塾ネットセンターの研修会に相乗りさせていただき、研修会後の総会、カラオケと盛り上がりました。四国のメンバーはほとんどの方がそれぞれ地元の塾の会に所属しています。

愛媛は愛媛私塾連盟（通称、愛塾連）、香川は香川進学研究会、徳島はとくしま塾教育研究会および徳島県私教育協同組合と地元で長く活躍されている塾長が中心になっています。ところが高知県だけ直接の仲間がいないのです。これは旧全塾連時代からの流れがそうだったのでそのままになっています。勿論高知にも素晴らしい先生方がたくさんおいでです。そこで秋の研修会で高知の先生方もお誘いして交流を持ちたい。これが秋（10月ごろ）に予定している『四国塾長会議』のコンセプトです。高知県の塾団体としては全国学習塾協会の高知県支部、くろしお進学会の二つの組織があります。聞くところによると香川、愛媛、徳島は高校、大学入試を中心とした塾が多いのに対して高知県は土地柄、私学が強いので中学入試を中心とした学習塾が多いそうです。多少塾のタイプが異なるのかもしれませんが、まだ具体的なことは全く決まっていますので、人脈のある楠山先生の協力も頂きながら、少しずつ四国のメンバーと共に決めていきたいと考えています。それともう一つ高知は本当に食が旨い、安い。それもあって高知でワイワイやりたいと考えている私でもあります。また来年からはセンターの会でも披露させていただいたように、寺嶋新体制で四国も動き出します。今まで以上に四国の活動にも注目してください。秋には是非四国に遊びに来てください。心からお待ちしています。

私塾ネットエリア中国 北川健治

塾、原点復帰への雑感



私塾ネット中国の活動は、定例会を通して、現場レベルの研修が柱となっている。今回は定例会と定例会のハザマでエリアとして特筆すべき事柄がないので、日ごろの研修の小さな雑感として少々肩肘を張って書きたい。この原稿を書いているまさに今、教育関連3法案が参議院で可決された。社会のあらゆる物が

構造的に疲労していることでくっついてしまえば、それもひとつの評論もあろうが、巷間、言われていることのひとつに教育は「国家百年の計」ともいわれているので、ある面では時代の過渡期の変り目にある現在、塾のなすべき原点について考えてみることも必要なこと

である。

わが国では、教育の問題の多くは行政がかかわる問題であるためか、子育てが終息すると、当事者がそれを考えるべきで、「あとはヨロシク」といった、考えが根強く、何か問題が起こるとそれはけしからん、何たることだ、という声が簡単にこれまた奇妙なことに、簡単にみな忘れるのである。敢えて、誤解されることを覚悟のことで私見を述べさせていただければ、洋の東西を問わず、教育の柱は、「黄金の五角形」で形成されてきたように思う。家庭、地域社会、学校、軍隊、教会寺である。この5つの拠点を頂点に五角形が形成され、正五角形ならば対角線でできるところのすべての三角形は二等辺三角形であるという、「一種の秩序形成」を旨として、人材作り、国づくりがなされてきたように思う。そして、時代は下り、軍隊、教会・寺の失墜と共にかろうじて残った家庭、地域社会、学校でもって、「黄金の三角形」を模索しているのが現在の教育の実態である。正三角形ならば内心、外心、重心は同じ点で交わるのであると同様、当事者が不動点を模索してくれて、その理想をわれわれに示してくれることを待っている。頂点がもはや3つしかないのであるから、平面図形的にはぎりぎりのところにきている。昨今の教育の問題は同一平面上での対症療法の枠を出ることなく、現場の当事者は本当にくたび果てている。ほとんどの当事者は本当に一生懸命、毎日孤立無援の戦いを余儀なく強いられている。「子供の大人化」、「大人の子供化」、「学習のゲーム化」、「ゲームの学習化」、「家庭の下宿化」、「家族の他人化」、「学校の生活化」、「公立の私立化」、枚挙に暇がない現況の中で。しかし、残った頂点ももはや崩れつつあるのである。しかし、人々は評論することはあっても、何もしようとしない。まだ、何か与えられるのを待っている。結論から言えば、待っていても何もやってこない。今の時代のキーワードは「閉塞状況」と「浮遊感」、「過剰、しかし不足」である。この負荷をばねに乗り切ることが今求められているのではなかろうか。「閉塞状況の共有」、「浮遊感へのエネルギー転換」である。次の日本の時代を作る人々、（敢えて子供とはいわない）にわれわれは何をすることができるのであろうか。何を示すことができるのであろうか。当事者任せにした過去を清算して、今こそ、われわれ私塾人は誇りを持って行動をしなければならぬ。学力とは変化に対応する力のこと

である。学力に真正面からぶつかり日々奮闘することを仕事に選んだわれらは今一度、自分のなしえなしえる使命を問うことが必要である。私は変に過去のノスタルジアに酔うところがあるのかもしれないが、常日頃の塾に集ういっさいの人々に、この時代の節目に、各個人が最小の単位であるところの家庭でもって、「家訓」を作ることを提唱すべきだと思う。そこから何かしらの光明が見えてくると思うのである。「家訓」を作る、この作業の中で、一人一人が、一塾一塾がどうあるべきかを問うことこそが、先ずは「教育の秩序作り」であると思う。たとえ嵐に飲み込まれようとも歴史はそれを見逃さないだろうことを信じて。私塾ネットはわが国を代表する塾の任意団体である。歴代の先達、現理事長が汗を流して作ってきた、忍耐と勇気と希望と、英知と情熱と信念の結晶の団体である。われらも、以上のような問題意識をもって全国の仲間と志を共有して、たちまち、元気よくこの夏も乗り切っていきたいと思う。

私塾ネット関東訪問研修 ステップ(神奈川)

平成19年6月3日(日) ステップ大和校

私塾ネットエリア関東 代表 鈴木正之



ステップの授業には躍動と感動がある。今回の研修で、龍井先生のお話をお聞きできたことで、「授業第一」であることを忘れていた自分に気づきました。当たり前前を当たり前前にする事の難しさを考えさせられ、シンプルが一番であることを認識しました。そして、教育者として学習塾の仕事をしていこうという決意を持つことができました。

龍井先生、池永先生、高橋先生、ありがとうございました。

以下、参加された先生方6人の感想です。



ステップ龍井先生を会員に紹介する佐藤先生

ステップ 龍井先生による研修会に参加して

湯口塾 湯口兼司

研修会の始まる時間より1時間半ほど早く大和駅に着いたので駅の周辺をうろろしていると谷村理事より携帯に電話をいただき『湯口さん、方向が違うよ。』とのこと。駅近くのレストランから見られていたようです。少し照れながらご挨拶をして『じゃ、私は駅の立ち食いそばでも食べてきます。』とお別れをして蕎麦屋さんに。そこでうどんを注文している龍井先生とばったり、緊張しつつ『龍井先生ですか?』と尋ねると『湯口先生、遠いところからご苦労さん。』と覚えて頂いていたことに感激。前回の研修のとき龍井先生の生き活きとした楽しい授業に感銘を受け『授業のビデオを四国の研修会で使わせてください。』とお願したところ、快く送っていただいた経緯がありました。おまけにステップ大和教室まで龍井先生に連れて行っていただきました。到着して少しすると広島若竹塾の佐藤先生が着かれて一言、『今日の研修会に湯口先生が来ていたら褒めてあげようと思っていました。』『私だって佐藤先生に行きませんかとお誘いしようと思っていたけど、授業があったら悪いら、、、』二人顔を見合ってにっこりでした。二時までの間、龍井先生、池永先生、佐藤先生にいろいろお話を伺うことができ、理科実験でお世話になった高橋先生とも久しぶりにお会いすることができました。さて研修会、珍しく一番前の席に座り、いつもはしないのですが今日は特別、メモを取りながらの二時間でした。研修の内容は他の先生も書いてくれるでしょうから私が強く感じたことのみ《 学習塾の本分である良い授業をするためにどれだけ準備をするか、授業内容こそが講師の営業である。だからその為の人を育てることに時間を割き、授業を終えて生徒たちが満足してニコニコ笑いながら帰ってもらう。楽しみのある授業であること。良い人材のいる学習塾であればどんな塾が来ようと長期的には心配ない。ただし実績は実績としてしっかり結果を出そう。》

佐藤先生はとんぼ返りで広島に帰られました。私は翌日ゆっくり遊んで四国へ、この辺に違いがあるのでしょうかねー? 龍井先生はじめステップの皆さん、私塾ネット関東のみなさん、本当にお世話になりました。充実した一日でした。ありがとうございました。

ステップの研修会に参加して

英数学院 長江勝秋

龍井先生研修会ありがとうございました。またお疲れ様でした。私は川崎市の南武線の武蔵新城駅近くで40年間個人塾を続けてきました。長江です。

3年前、臨海セミナー・稲門進学ゼミナール、2年前、湘南ゼミナール・英才個別学院・名学館など

が駅前に進出してきました。また10年前から存在するラサール進学教室・明光義塾などと激戦状態となっております。当初は毎月月末になると他塾に移るために退塾する生徒が続出して、毎日神経の休まる事がない有様でした。生き残るために出来る限りの事をしました。授業カリキュラム・指導態勢の見直し、安心メールの導入、自習室・最新式トイレ・飲料水ボトルの設営。チラシのポスティング・校門配布など。努力のかいがあって今年になって元の生徒数に戻ってきました。しかし今後の事を考えるととも枕を高くしてやすむことなど出来ません。

そんなとき私塾ネットからステップの龍井先生の研修会のお知らせが届きました。神奈川の大手の内容をお聞きするよいチャンスだと思い参加させていただきました。龍井先生のお話は私の必要とする情報を的確に満たしていただいた上、さらにあまりあるものでした。早速、研修会で得た情報を活かし周りの塾に負けない強固な基盤を創って参ります。龍井先生ありがとうございました。

あっ、それから厚かましいのですが、龍井先生にお願いがあります。武蔵新城にはステップ、進出しないでください。ステップにはとても敵いません。どうかそれだけは、私塾ネットのお仲間に見じてご勘弁を。よろしくお願い致します。



龍井先生のお話真剣に耳を傾ける先生方

一言で表せませんが、とにかくすごいです。塾として何をすべきかを明確に龍井代表が認識されていること、それを大規模のSTEPさんが実践されていること、代表の話されたこと一つひとつが「目から鱗」でした。自分自身の甘さ、甘え、弱さなど痛感しました。機会があればひまSTEPさんにお伺いして、色々なことを学びたいと思いました。

ステップ訪問研修に参加して

いづき学院 藤本翔太

今回の研修に参加し、各先生方が並々ならぬ熱意を持って授業を行っていることを知ることができた。大手の中にはすさまじい営業活動によって生徒を獲得しているところもあるが、我々にとって最大の営業活動はよい授業を行う、つまり子供に塾に来て満足してもらえるように務めることであると考えている。教師一人一人が熱意を持って生徒に当たることで、生徒も感ずるところはあるだろうし、それが相乗効果をもたらすであろう。決して驕らず、生徒との対話をはかり、悩みなども聞いて、良好な関係を構築していくことも大切だと考える。それは生徒のためにもなるし、将来の自分たちのためにもなることだと思っています。



講演を熱心に聴く谷村理事長と会員の先生

STEP研修の感想

人間教育渡辺塾 渡辺浩

今回STEPさんに訪問させていただくのは2回目ですが、正直前回の研修は自分自身が塾というものを真面目に捉えていなかった点が多くあったので、「絵に描いた餅」でしかありませんでした。しかし今回は最初の打ち合わせの段階から参加させていただき、STEPさんとの窓口にもなっていましたので、前回のような失敗は繰り返すまいと肝に銘じ、参加させていただきました。研修会での率直な感想は「すごい！」の一言です。何がすごいのかは

龍井先生のお話を伺って

山吹学習会 竹内康信

龍井先生のお話から、生徒のためになることに誠心誠意うちこんでいらっしゃるということを感じました。

小生も、今まで生徒のためにはと思い授業で使う教材作りを必死でやってきました。教材を作っている最中に入塾の問い合わせがあると不機嫌になるくらい夢中になっていました。営業の面はほとんど何もやってきませんでした。そしてその結果は“風前の灯”ということになっています。しかし後悔はして

いません。瀧井先生のお話をうかがって「今までの路線はまちがってはいなかった。これからも教材作りは継続していこう。」という元気をもらってきました。

瀧井先生の塾を訪問させていただいた感想

LAPS 鎌ヶ谷 田中宏道

びっくり。

当たり前のことを当たり前で追究し続けている瀧井先生の存在は僕にとって大きな光です。

瀧井先生の塾では教務を真摯に追究されるばかりではなく、生徒、保護者の皆様に安心感を与えるように、どの大手塾もやっている最低限のこと（広告、広報、情報提供など）も当たり前になさっていることに驚いております。

なぜそれが可能なのか？教務を追究される方は往々にして独りよがりとなり、いい授業さえやればいいんだ！となりがちで、その為に時代に取り残されなくなってしまった塾がたくさんある中で、独りよがりにならずに、生徒のためになることは授業が一番だけれども、そのほか考えられることを多くやってきたSTEP、感服いたしました。

教務を真摯に追究している上場塾は他にはなく、日本の中で唯一の組織のように感じました。もしかしたら、日本の学校全てを含めても、こんなに教務を追究されている塾はないのではないかと思います。見習いたい。ほど遠いけれど。。。

瀧井先生、松永先生、高橋先生、ありがとうございます。

あの～、うちの全スタッフも含め、しばしば教えをいただけたらありがたいのですが。。。

私塾ネットエリア東北代表 畑山 篤



4月22日（日）に品川プリンスホテルで行われました「全国研修大会」にて、「元気塾」として10分余り時間を頂きまして、私どもの志学塾で行っている「OK！書き込み学習法」についてお話をさせて頂きました。その後、教室見学のお申し込みが5月は東京、宮城からの2塾、6月は宮城からの2塾と秋田、京都の2塾からありました。

この時期、八戸は気候も穏やかで、日中の気温が25 近くまで上がっても夜半には 16 近くまで下がり南方からお越しの皆様は過ごしやすいと喜んで下さいます。しかも、6月から8月は地場の生ウニが豊富に出回り、イカ、ホヤなどの三陸の海の幸と焼酎が「教育談義」を熱いものにしてくれます。

「OK！書き込み学習法」は小・中・高の全てに、一斉・個別の形態にもこだわることなく適用できる指導法です。しかも全学年に自ら「先取り学

習」をさせます。来て頂いた諸先輩方にご感想やご忠告を頂き、多くの塾で使って頂けるよう定期的な教室見学会や指導法の勉強会のご提案も頂きました。今年6回目の教室訪問に来て下さった宮城県気仙沼の塾長先生はマニュアルまで作って下さいました。ありがたいことです。

そんな流れの中で、「2007年教育進学情報交換会」という会合を私塾ネット・東北が主催して6月20日（水）に八戸グランドホテルで開きました。八戸市近郊の120塾にご案内を差し上げたところ、会員塾以外で7名の参加がありました。小学生コース、高校生コースの「巧いやり方」や入試制度の「最新情報」について3時間余り有意義な情報交換が行われました。



会議場風景

正面右が司会進行役の畑山・左隣が副理事長関岡先生

そして、この夏すぐに役立つイベントとして「2007最新高校進学説明会」を7月16日に八戸市で開催することになり、このイベントの実行委員会を早速6月26日と6月29日に、授業が終わってからの集合なので23時から、八戸市屋台村「みろく横丁」で開催しました。東北エリアの会員塾は5塾しかなく、まずは会員かどうかにかかわらず懇親の機会作りからスタートしようということに。八戸は連日連夜早朝まで熱い語らいが続いています。全国の皆様もどうぞお越し下さい。



八戸は女性陣が大活躍！（八戸屋台村「みろく横丁」にて）

渉外部報告

渉外部長 佐藤勇治

各学習塾団体の新年度(2007)は、例年通り、4月、5月と総会や役員改選が行われ、6月に入って本格的な活動が始まりました。

今回は各団体の5月～7月の主な活動の報告です。

(1) 全日本学習塾連絡会議

6月10日(日) 平成19年度(2007)『私塾・私学・企業 教育ネット要覧』第7集の発行

(B5判・326頁、2500部)と全国66学習塾団体への配布

6月28日(木) 第7回世話人会

10:30 - 12:00 会場：全国学習塾協同組合

7月5日(木) 第82回 全日本学習塾連絡会議

第28回私立中高進学相談会第1回実行委員会

10:00 - 12:00 会場：かんぼヘルスプラザ

内容：平成19年度(2007)『私塾・私学・企業 教育ネット要覧』第7集 出版報告、各団体行事予定報告、第28回私立中高進学相談会準備状況報告と役割分担

(2) 全日本私塾教育ネットワーク(私塾ネット)

5月9日(水) 私塾ネット関東 部長会議

10:30 - 13:30 会場：東京八重洲倶楽部

内容：私塾ネット関東事業計画の検討と各部活動計画の発表

6月3日(日)私塾ネット関東訪問研修

13:00 - 18:00 会場：ステップ大和スクール

内容：龍井郷二代表のお話と懇親会

(3) 千葉学習塾協同組合(JAC)

5月13日(日) 設立20周年記念植樹・JACの森 創設 10:00 - 15:00 場所：市原市所有地

内容：市原市、千葉県、千葉学習塾協同組合の3者による協定事業

5月27日(日) 設立20周年記念 教育シンポジウム 10:45 - 12:45 会場：船橋駅前FACEビル6F船橋きららホール

内容：「教育改革の流れはどこへ行く！」～2つの視点・学校教育と民間教育

(4) 社団法人・全国学習塾協会

6月10日(日) 総会、研修会、懇親会

13:00 - 18:00 会場：東京ファッションタウンビル 東館 9F 研修室907

内容：研修会 講師 江東区立八名川小学校校長小山正見氏

「学習塾の連携から学ぶもの」

授業及び放課後生活に関する調査について
調査期間：4月4日～5月15日

調査対象：小学生4,622名、中学生9,068名、保護者7,331名

(5) 社団法人・かながわ民間教育協会

7月8日(日) 教育シンポジウム(旧すばるの会) 16:00 - 19:30

会場：新横浜国際ホテル(南館)

内容：研修会と懇親会「講演」関西京都今村組 今村克彦先生

ほかに、「私塾・私塾フェア2007」を9月30日(日)に町田会場と小田原会場で、10月13日(土)に横浜会場で開催する

(6) NPO 学習塾全国連絡協議会(NPO塾全協)

5月20日(日) 中高入試を考える会

15:00 - 16:30 会場：かんぼヘルスプラザ

内容：「激震！埼玉」埼玉県高校入試制度改革

ほかに 9月17日(祝) 私立中・高入試相談会を新宿NSビルで開催

(7) NPO法人 全国教育ボランティアの会

7月15日(日) 第1回「地域で行う子育て事業支援フォーラム推進事業」

第6回「生きいきワクワク体験・親子の集い」

9:00 - 18:00 会場：調布市民プラザ

内容：米粉のカステラを作って食べよう。ミニプラネタリウム作り。

「生きいきワクワク体験・親子の集い」開催予定日 9月23日(日) 日専連ビル(北海道根室市)

10月7日(日) 池田学園小学校(鹿児島市)

10月28日(日) 朝日塾小学校(岡山市)


12月8日(土) 筑西市立小学校(筑西市)



7月の花 ホテイアオイ

新入会員紹介 ようこそ私塾ネットへ

4月以降エリア関東では4名の新入会員をお迎えしました。仲野事務局長、田中研修部長の日頃の研修活動と鈴木代表の「パロス個別システム」活動の成果です。よろしくお願いいたします。

ふりがな	そうえい			ふりがな	とよかわ ただのり
塾名	創英ゼミナール			代表者	豊川 忠紀 先生
住所	〒254-0016 神奈川県平塚市東八幡2-5-1			T E L	0463-23-4100
				F A X	0463-23-4429
指導形態	個別	指導年	小学生・中学生 高校生	U R L	
				Eメール	
メッセージ & P R				<p>入会をさせて頂きありがとうございます。全国の学習塾の諸先輩方、お仲間の皆様、ご指導宜しくお願い致します。</p>	

ふりがな	あい・えぬ・じー			ふりがな	
塾名	ING進学教室			代表者	岡田 弘行 先生
住所	〒198-0041 東京都青梅市勝沼 1-46-4			T E L	0482-21-5511
				F A X	0482-21-4400
指導形態		指導年		U R L	www.ING.school.co.jp/
				Eメール	
メッセージ & P R	<p>当社は、東京の西部に位置します西多摩地域の青梅市で、21年前に産声をあげました。そして、現在はJR青梅線沿線を中心に、地域密着型の塾として教室を展開しています。</p> <p>この度は、当会のメンバーに加えさせていただく事になり、大変光栄に思っております。当会がこれからも発展していくよう、微力ながら頑張らせていただきますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。</p>				

ふりがな				ふりがな	
塾名	英才予備校伸学院			代表者	山口 伯
住所	〒343-0047 埼玉県越谷市弥十郎 727-13			T E L	048-977-2803
				F A X	048-976-7163
指導形態		指導年		U R L	www.2.tbb.t-com.ne.jp/sh
				Eメール	
メッセージ & P R	<p>副院長の山口容子と申します。私塾ネットの会には、私が出席させて頂きます。オバサン(おばあさんではありません)ですが、よろしくお願いいたします。</p>				

ふりがな				ふりがな	
塾名	FAIセミナー			代表者	川田 均 先生
住所	〒374-0024 群馬県館林市本町 4-4-26			T E L	0276-73-9396
				F A X	0276-73-9397
指導形態	クラス	指導年	小学生・中学生 高校生	U R L	
				Eメール	

推薦図書 小宮山博仁著 『中学受験と生きる力』

文責 谷村志厚

私塾ネット名誉会員であり、教育評論家として活躍をされている小宮山博仁先生の著書『子どもの「底力」が育つ塾選び』を広報17号で紹介した。その姉妹書として、この3月に日本評論社より「中学受験と生きる力」が出版された。本書の構成は第1章「私立中学をよく知る」から始まり、「中学受験で気をつけること」「中学入試問題と生きる力」「中学受験に成功するには」の4章仕立てで、中学受験のすべてを考察している。小宮山さんの

著書は、先の「子どもの「底力」を…」もそうだが、受験生の保護者ばかりか、むしろ塾経営者にとって座右の書となるものだ。ご興味の向きはぜひご一読を。また保護者向け資料としてまとめてご購入をお考えならば、直接小宮山先生にご一報されてはいかがか。

日本評論社 1700円(税別)

2007年3月15日初版 著者： 小宮山博仁

問合せ：小宮山式ネットゼミ 042-350-6150

私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長 仲野十和田

9月以降の予定です。

エリア東北

12/3(日) 予定で恒例の進学相談会(八戸)を予定しています。規模的には小さいのですが、受験生の立場に立った有意義な相談会です。一見の価値あり。

エリア関東

9/2(日) 定例会・研修会(川畑先生塾舎)。パワーポイントの使い方など、パソコンに関する研修を行います。

10/28(日) 私学情報交換会(新宿BIZ)。私立校の先生を4、5人呼び出して、その先生のお人柄から学校を見ていくという、面白い角度からのアプローチです。

エリア中国

9/9(日) 広島私塾連盟創立20周年記念式

典(広島・リーガロイヤルホテル)。

9/13(木) 定例会(広島)。

11/11(日) 一泊研修忘年会。

エリア四国

10月。四国塾長の会開催予定。

今年度より、エリア関東で企画部が立ち上がりました。部長は私塾ネットのマドンナ、菅谷友豊先生です。活動の目的は、「元気がない塾に息を吹き込んで蘇ってもらおう」というものです。光栄にも患者塾第一号は我が塾(ナカジユク)でした。立ち上げの教室と既存の教室を見ていただき、たくさんのアドバイスをもらいました。そして、菅谷先生のアドバイスなしに立ち上げていたことを思うと、ぞっとします。菅谷先生はエリアを超えて活動していただけるとのことですので、塾づくりにお悩みの方、ご相談してみたいはいかがでしょうか？

閑話休題

理事長 谷村 志厚

山口先生・石井先生お疲れさまでした

TOPICS欄で全国学習塾協会の総会の様子を紹介しました。山口・石井両先生が退任をされるとのことで、お二人のことを特集させていただいた次第です。あらためてお二人のご功績に感謝いたします。協会が発足して19年が経過しました。お二人はその立ち上げから会の運営に関わられましたが、苦難の多い協会運営であったと推察します。私がお二人を存じ上げて、やはり20年を越えます。山口先生との出会いは、かつて全塾連の名物塾長であった「ひげの梶さん」こと蛭雪学園の梶本先生のご縁でした。彼が主宰する研究会にお誘いいただいたのが始まりでした。研究会のたびに広島から上京される山口先生の、熱心かつ真摯な取り組みのご様子に、いたく感動を受けたものでした。石井先生との出会いもほぼ同時期でした。全塾連、関私連そしてPTFで構成する塾団連の研修大会でお会いしたのです。先生はその当時から見事な銀髪で、紳士然とした穏やかな立ち居振る舞いが印象的でした。今回特集ページに掲載した写真のご表情が、その当時の面影をよく伝えていきます。いくらかお年を召されましたが、当時私はPTFに所属する「若手」と呼ばれる新人でした。現在関私連の理事長を務める荒川さんも「若手」と呼ばれていましたが、歳月は正直なものです。4月の全国研修大会で久しぶりに荒川さんとお話をする機会がありましたが、「若手」当時の話に花が咲き、苦笑いをしたものです。ともかくも、山口・石井両先生の社団でのお役目は次世代に引き

継がれました。その主要なメンバーが私塾ネットのお仲間です。今まで以上に会をあげの応援をしたいと思います。まずは10月7日の塾の日フェスティバルに参加されてはいかがでしょうか。

ちょっと元気になる玉城邦夫さんの話

全国学習塾協同組合の専務理事、玉城邦夫さんをご存知の方は多いと思います。私塾ネットの行事には必ずといっていいほど出席をされ、二次会三次会まで顔をだされ、まことにお付き合いのよい方です。その玉城さんが習志野市の旧塾舎を建替えて新校舎を落成されました。20年以前から塾舎建築の夢を語っておられたので、ついにやったかとの感慨深いのですが、還暦をとうに過ぎての偉業に、なにかと話題が多いことです。6月30日にそのお披露目があり、交流の深い平林・鈴木両氏とお邪魔をさせていただきました。木の香たつ、ぴかぴかの教室にいたく刺激を受けました。バリアフリーにも配慮が行きとどいており、事務室脇にエレベーターが設置されています。費用が随分かかったでしょうと問えば、「九十九まで教えますから、車椅子でも移動できるように・・・」とお答え。九十九歳、いわゆる白寿の現役教師が彼の目標なのです。まさかとお思いになるでしょうが、玉城さんは普通の方ではありませんので、これがあながち冗談ともとれぬところがすごいところ。なにしろ現役フルマラソンランナーにして80台でのゴルフ・エイジシュートを狙う鉄人です。それにしても、白寿の現役教師の誕生を確認できないのが残念です。なにしろこちらがその前にくたばってますからね。白寿のお祝いは後輩にお任せすることとしましょう。

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校 03-3376-2244
 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
 村山 ヲドラ先生
江戸川学園取手中学高等学校 0297-74-8771
 〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
 竹澤 賢司先生
十文字中学高等学校 03-3918-0511
 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
 卯木 幸男先生
東洋高等学校 03-3291-3824
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
 齋藤 元治先生
桜丘中学高等学校 03-3910-6161
 〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
 品田 健先生
聖徳大学附属中高等学校 047-392-8111
 〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
 川並 芳純先生
麹町学園女子中高等学校 03-3263-3014
 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
 伊藤 暁先生
春日部共栄中学 048-737-7611
 〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
 宇野 禎弘先生
大成高等学校 0422-43-3196
 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
 森 保先生
東京学園高等学校 03-3711-6641
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
 須藤 勉先生
東京立正中学高等学校 03-3312-1111
 〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
 藤井 教戒先生
八雲学園中学高等学校 03-3717-1196
 〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-14-1
 横山 孝治先生
関東第一高等学校 03-3653-1541
 〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
 副田 康孝先生
武蔵野中学高等学校 03-3910-0151
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
 福澤 清一郎先生
神田学園中高等学校 03-3291-2447
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-3-6
 後藤 久夫先生
和洋国府台女子中学高等学校 047-371-1120
 〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
 太田 陽太郎先生
東京文化中学高等学校 03-3381-0196
 〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
 上前 善勝先生

英数学館中学高等学校 084-941-4115
 〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
 和田 淳先生
文京学院大学女子中学高等学校 03-3946-5301
 〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
 水上 茂先生
京北学園中学高等学校 03-3941-6253
 〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
 実方 隆志先生
大森学園高等学校 03-3762-7336
 〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
 河嶋 正先生
東京成徳大学中学高等学校 03-3911-2786
 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9
 増澤 文徳先生
日本工業大学附属中学 03-3467-2130
日本工業大学附属東京工業高等学校
 〒153-8508 東京都目黒区駒場1-35-32
 河村 文夫先生
青稜中学高等学校 03-3782-1502
 〒142-8550 東京都品川区二葉1-6-6
 多々良 昭典先生
東京女子学園 03-3451-6523
 〒108-0014 東京都港区芝4-1-30
 実吉 幹夫先生
安田学園中学高等学校 03-3624-2666
 〒130-8615 東京都墨田区横綱2-2-25
 福谷 隆芳先生
多摩大学目黒中学高等学校 03-3714-2661
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-10-24
 福本 明男先生
駒込中学高等学校 03-3828-4141
 〒113-0022 東京都文京区千駄木5-6-25
 河合 孝允先生
愛国中学高等学校 03-3658-4111
 〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1
 高橋 英夫先生
日本橋女学館中学高等学校 03-3662-2507
 〒103-8384 東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6
 羽田野 敦先生
株式会社パイロットコーポレーション 03-3538-3782
 〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21
 辻 豊様
株式会社教育企画ティーファイブ 03-5479-7061
 〒140-0001 品川区北品川1-22-17 ニックハイム104号
 山田 孝幸様
株式会社創開コミュニティ 04-7164-6511
 〒277-0005 千葉県柏市柏3-4-25 小溝ビル
 小林 和光様
㈱アズサコーポレーション 03-3477-2011
 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町29-31
 石野 ゆかり様
ギガビジョン株式会社 03-3237-5861
 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-4-5
 櫻井 淳二様